

# 耳公民館だより



第63号 令和6年11月



(溪流の里入口：新庄)

耳川の上流にのぼっていくと、下流とは姿が変わって大きな石がごろごろと鎮座しています。大雨の時に転がってきたのでしょうか。もとはごつごつしていたのが、水の流れてけずられたり石どうしでぶつかって割れたりして、だんだん小さくなって和田の海にたどり着くころには石ころや砂つぶになるのでしょうか。春夏秋冬を何回越える“長旅”なのか、砂浜で聞いてみたいくなります。

## 第3回グラウンドゴルフ大会 11/4(月)

36名



ホールインワンが13回、2打上がりも多く出て、大変盛り上がりました

上位入賞者(敬称略)

- 1位 関口幸男
- 2位 上登野榮子
- 3位 山下正昭
- 4位 水永秀夫
- 5位 久保俊一

## 地域愛ウォーク in 耳地区 11/9(土)

17名

絶好の行楽日和



浅ヶ瀬の心臓破りの坂

旧 新庄小⇄溪流の里 9キロ



溪流の里で  
美味しい塩焼きを

どんぐり倶楽部で  
スイーツも

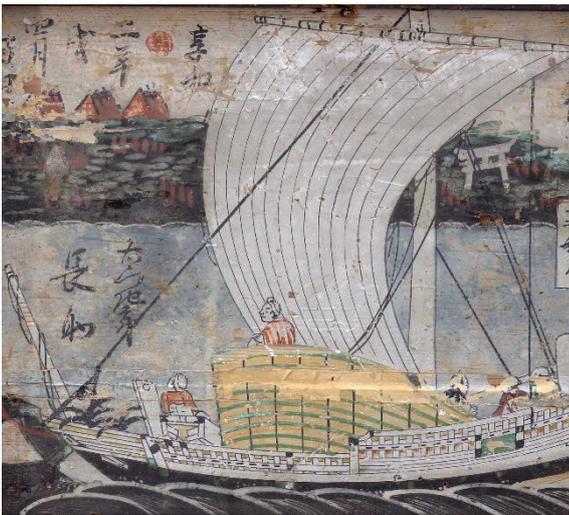


歴史文化館企画展：耳公民館共催

日本遺産認定記念

# 「荒波を越えた男たちの夢が紡いだ異空間 ～北前船寄港地・船主集落～」

## 美浜に残る 北前船の波跡 その式



【会期】（前期展示）

11月7日(木)～

12月26日(木)

午前9時～午後5時

受付は午後4時30分まで

月曜・祝祭日の翌日は休館

【会場】歴史文化館展示室

※入館料100円

### 館長のつぶやき

きのこ

地域愛ウォークで新庄を歩いていると、山の幸に囲まれているようで楽しいです。しかし、全国的に野菜は不作傾向で鍋料理を出す飲食店では不本意な出来ばえになっているとか。若狭松茸は上々の収穫というニュースがあっても、我々庶民の食卓にはそう簡単には回ってきませんね。

世界で松茸を食べるのは日本と韓国ぐらいで、欧米では敬遠されても日本なら売れるとばかり世界各国から松茸の仲間が集まってきて、今や国内消費量の九割が外国産ということ。ただ、味や香りが全く同じものから、食べ比べてみるとかなり違うものまで色々あるようです。

何せきのこは種類が多く日本だけでも五千種類と言われています。よく似たものがいっぱいあって、いわゆる「他人の空似」状態で、おいしいもの、今一つのもの、まずいものがあっても見た目はほとんど同じなわけです。しかも、きのこはまだまだ新種が発見される可能性が高いという今後の研究が楽しみな生き物です。

よく似ていても一味ちがう。公民館の事業もあちこちで色々な取組がなされていて、びっくりするような企画はないかもしれませんが、工夫次第でおもしろいことができます。「新種」とまではいかなくても発見や気づきがあって楽しい仕事です。

きのこには危ない種類もあって要注意ですが、公民館の場合は警戒しすぎるあまり「毒にも薬にもならん」と言われて関心が薄れることは避けたいといけません。